



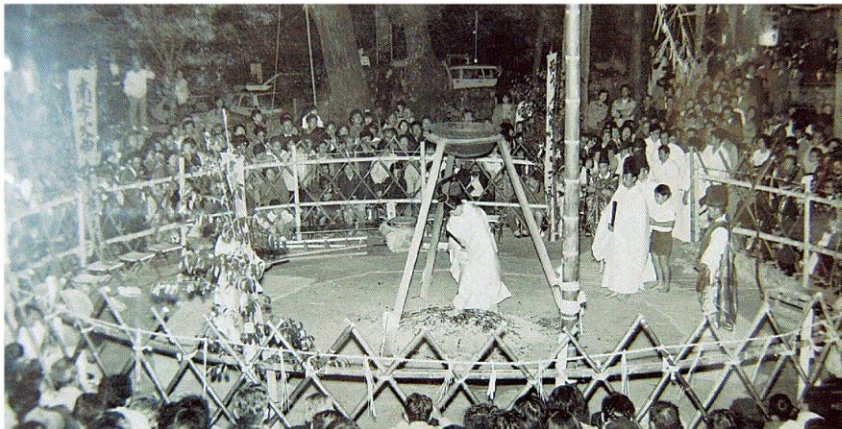
32年ぶり湯立神楽

耶馬溪の雲八幡宮

5日に「火渡りの祭」

【中津】中津市耶馬溪町宮園の雲八幡宮（秋永一憲宮司）で5日、「湯立神楽火渡りの祭」がある。宮司の代替わりに伴って行う祭礼で、1991年以来32年ぶり。早朝のみそぎで始まり、深夜まで神楽計三十三番を奉納する。地域の食文化を発信するため、郷土料理などを販売する「耶馬の幸物産展」も併催する。

宮司代替わり 深夜まで三十三番奉納



前回の火渡り。釜（中央）の下にあるおき火の上を、はだして歩いた＝1991年10月

湯立神楽は、木と竹を組
み赤土を塗った脚の上に釜
を乗せ、まきで湯を沸かし
て舞う。通常の神楽に続き
終盤の六番が湯立神楽。最
後は、氏子らが湯立てのお
き火の上をはだして歩く荒
行「火渡り」で納める。



雲八幡宮の境内で、地域の年長者が教えながら、竹を編んで結界をつくる若手＝中津市宮園

元号が令和に変わった2019年5月1日に父親の勝彦さん(80)から、秋永宮司(44)に代替わり。当初は翌年秋に開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期になっていた。

「何度も延期し、地域の高齢化や人口減少も重なって湯立神楽をやめようという議論も出た。だが、伝統を守り、町を元気にしよう」と氏子ら地域の人々が頑張ってきた」と秋永宮司。10月29日には伝統と技術の継承の意味も込めて、老若男女の氏子が、神楽を舞う場所を、竹を編んで囲み結界をつくった。

当日は午前6時からみそぎをし、同9時から神楽。九州内屈指の雅楽奏者らが舞楽「陵王」などを演奏する。湯立神楽後の午後10時ごろから火渡りがある。

物産展では、郷土料理の「煮ぐい」、きねつき餅、アユの塩焼きなどの伝統食や天然酵母パン、有機食材などを販売する。問い合わせは雲八幡宮(0979・56・2309)。

(田崎啓三)



記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 「湯立神楽」がどのような内容かを説明する部分を記事の中から探して書き出しましょう。

答え 【木と竹を組み赤土を塗った脚の上に釜を乗せ、まきで湯を沸かして舞う】

〔問②〕 宮司が代替わりしたのは「平成」から「令和」へ元号が変わった日ですが、それはいつですか。

答え 【2019年5月1日】

〔問③〕 何度も延期される中、湯立神楽をやめようという議論も出ましたが、氏子や地域の人々はどのような気持ちで頑張っていますか。

答え 【伝統を守り、町を元気にしよう (という気持ち)】

〔問④〕 物産展で販売される郷土料理は記事の中で3つ紹介されています。全部、書き出しましょう。

答え 【「煮ぐい」、きねつき餅、アユの塩焼き】

※「煮ぐい」は「 」が無くて可。

〔問⑤〕 大分県内や、あなたの住む地域で伝統を守っていきたいと思う行事は何ですか。

※自由記述